



2025年
10月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 林 和 広

印刷所
文明堂印刷所

からし種一粒ほどの信仰

司祭 パウロ 上原 信幸

私はこの秋に高齢者の仲間入りをします。私が物心ついたころ、今は明石海峡大橋のかかっているあたりの神戸市の西側ですごしました。日本では戦後の高度成長期にあたる頃です。

私の記憶にのこっている風景は、見渡す限りの造成地で、ブルドーザーで均したばかりのむき出しの地肌が続いています。私が初めて聖地を見ました。私が初めて聖地を見たとき、どこか懐かしい気持ちがありました。それは、子ども時代に草の生えていない土地の先に、対岸の淡路島

が見える風景と、ガリラヤ湖や死海の風景が重なったのだと思います。その後次々と建物が建ち、風景は一変していききました。同じ時期、須磨の海岸に当時日本一長いベルトコンベヤーが完成し、山を削り、海を埋め立てるといふ大業が始まりました。日曜日に教会へ行く途中、電車は須磨の海岸線を通りました。私が頭上にある橋のような物体は何かとたずねると、父が「ベルトコンベヤーというもので、山を削って海に島をつくるのだ」と答えたことを覚えていました。



高松聖ヤコブ教会礼拝堂

私が学生時代にポートアイランドが完成しましたので、15年にわたる大事業でした。その後も、土砂採取は須磨から垂水の奥へと進んでいきました。

私たちが取り巻く環境は、様々な課題が山積みと言っても良い状況です。ベルトコンベヤーに乗せるように順調に片付くことでは無いでしょう。

そして、六甲アイランドや、神戸空港などの人工島が次々と誕生していったわけです。人間が、信念をもって取り組んだとき、まさに山が海に移って、陸地となりました。動かざること山のごとしは、風林火山の一節ですが、イエスキリストの約束の中には、「信仰をもってすれば山ですら移る」というものがあります。

しかし、山が動く前提としてあげられたのは「からし種一粒ほどの信仰」です。このマタイによる福音書の物語では、弟子たちが十分な働きが出来なかつた時に「あなたたちの信仰が薄いからだ！」というイエス様のお叱りで始まります。けれども最後は「あなたがたにできないことは何もない！」と結ばれています。バシル八代智主教が第9代神戸主教に着座され、宣教150年の節目を迎えようとするこの時、私たちが様々な課題に向かい合おうとする時こそ、このみ言葉を思い出したいと思います。

2026年 2025年10月中旬発売

聖公会手帳

大型判 (A5) 2,200 円 (税込)
ポケット判 1,200 円 (税込)

- 日本聖公会各教区の協力のもと、管区事務所が責任編集
- 2026年度 教会暦・日課表を完全収録

「お申込みはハイブルハウス東区へ」
☎ 03-3203-4137
※インターネットでのご注文も可能です

※画像はイメージです

平和を実現する人々は幸い

執事ルカ 宮田 裕三

敗戦から80年を迎えた20

25年、広島平和礼拝に参加しました。原爆投下日である8月6日の前日、広島復活教会で被爆証言を聞き、平和祈念公園にある原爆供養塔前では、日本聖公会・日本福音ルーテル教会・カトリック教会合同の「平和のための祈りの集い」に参加しました。そして8月6日、広島復活教会での平和礼拝聖餐式で、皆さんと



共に祈りを捧げました。

人の話を聞くのが苦手な私は、被爆証言を語られた近藤絃子さんの話をはつきりと思い出すことができません。お話し最後に、生後8ヶ月で被爆された近藤さんが、80年前に着ていたというベビー服を手にとって見せてくださったことが印象的に残りしました。それは原爆資料館で見たものと同じ、薄茶色に変色した小さなベビー服でした。原爆投下時、近藤さんはお母様に抱かれて腕の中にいたそうです。このことだけが私の記憶に残り、神戸に戻りました。

8月15日の午後、神戸キリスト教書店の後藤さんが、いつものようにおすすめの本を持って営業に来られました。私が興味を持ちそうな本をいくつか持ってきてくださり、まふまふと買ってしまうのです。

その中に『ヒロシマを次世代に語り継ぐ谷本清・近藤絃子』という本がありました。後藤さんは近藤絃子さんと知り合いだと言います。広島講演会では買わなかった本を、神戸で手に入れることになりました。

戦後80年が経ち、被爆体験者がいなくなりつつある今、「次世代に語り継ぐ」ことの重みを突きつけられたような、畏怖の念を抱きました。(神戸聖三カエル教会牧師補)

未来につながる平和

神戸聖ミカエル教会
マルセラ 宮田 美樹

被爆80年を迎える8月9日、私は長崎原爆記念礼拝に参加しました。

その前日、「被爆くすのき」に会いました。ただ静かに力強く、優しいその佇まいには、何百年もの歴史を感じました。そして、そこから飛び立つ小鳥たちの姿や、蝉の声

を聞き、「未来へつながっていくいのち」を感じたのです。夕方には、長崎県宗教者懇話会が主催する「原爆殉難者慰霊祭」にも参加しました。

そこで聞いた「私たちには、自衛のためとして人を殺傷し戦争へ突き進む残酷性と狂気がある。それを自覚しつつ、愛や慈悲の理念と対話の実践で、人類すべての非戦平和の実現に努力しましょう」という言葉が心に深く突き刺さりました。

8月9日、傘を差していてもびしょ濡れになるほどの雨の中、長崎聖三一教会へ向かいました。

礼拝は、九州教区の新しい主教、柴本孝夫主教が司式し、大阪教区の新しい主教、小林聡主教が説教をされました。私も旧約聖書朗読の奉仕をさせていただき、50人ほどが集うシンプルな礼拝でしたが、とても豊かな時間だと感じました。原爆投下の時刻である11時2分には雨が止み、蝉が鳴き始めていました。

「平和」は、ただ願えば与えられるものではありません。戦争をするのも人間ですが、平和を創り出すのも人間です。私たち一人ひとりが互いに祈りあい、支え合うことで、平和は生まれます。その小さな平和を、未来へつないでいきたいと願っています。



日本聖公会神戸教区 第61回中高中生大会を終えて

大会長 米虫 美穂

2025年8月12日(火)～14日(木)、広島市のユースハイム似島歓迎交流センターにて第61回中高中生大会が開催されました。テーマは「青春燃夏くバリ最高の笑顔をも一度 今しか出来ない青春を」でした。このテーマのもと、役員一人ひとりが工夫を重ね、笑顔があふれる時間を作りあげました。



今回の大会では、活動の中で自然と笑い合える場面が多くありました。特にパウムクーヘンづくりやプールといったプログラムでは、最初は緊張していた人も少しずつ打ち解け、仲間とともに「今しかできない青春」を楽しむ姿が印象的でした。大会中に見せる、みんなの笑顔は、このテーマの言葉そのものだったと思います。

しかし中高中生大会は、中高中生の役員だけではできないことが多くあります。準備の段階から支えてくださったキャンパスサーバー(CS)の方々や教役者の皆様、そして、最後まで一緒に大会を盛り上げてくれた参加者のみなさん、そばに居てくださった神様に心から感謝しています。

来年の大会長、役員も決定しました。今年もたくさんの方が役員に立候補してくれました。来年の大会でもさらに多くの笑顔と青春の瞬間が生まれることを願っています。

二〇二四年から管区届出の人権担当を務めています。人権担当者としてどのようなことをしてきたかをお知らせできればと思います。今まで参加した二回の担当者会について報告させていただきます。

人権担当者からの報告 ①

フランツ 東 弘彦 (神戸聖ヨハネ教会)

一度目は大阪教区の城南キリスト教会で行われました。テーマは人権・差別問題として取り上げられることの多い、部落差別についての学びでした。

二〇二四年から管区届出の人権担当を務めています。人権担当者としてどのようなことをしてきたかをお知らせできればと思います。今まで参加した二回の担当者会について報告させていただきます。

二度目は東京教区の清瀬聖母教会で行われました。テーマはハンセン病です。一日目は、東村山市の国立ハンセン病資料館の見学と各教区の報告、二日目は国立療養所多磨全生園(たまぜんしょうえん)内に置かれた、聖フランシス聖エリザベツ礼拝堂で、朝の祈りと礼拝堂の歴史と現状の学習、さらに続いて、療養所の見学と入所者の証言を聞くという、貴重な時間をもちました。

動・状況報告と、部落問題を描いた映画「橋のない川」の鑑賞、二日目は部落解放運動の起点となった、奈良県の水平社博物館での学習、つづいて現実の被差別部落であった場所をめぐるフィールドワークでした。

二度目は東京教区の清瀬聖母教会で行われました。テーマはハンセン病です。一日目は、東村山市の国立ハンセン病資料館の見学と各教区の報告、二日目は国立療養所多磨全生園(たまぜんしょうえん)内に置かれた、聖フランシス聖エリザベツ礼拝堂で、朝の祈りと礼拝堂の歴史と現状の学習、さらに続いて、療養所の見学と入所者の証言を聞くという、貴重な時間をもちました。

(次号へ続く)

鳩だより

《敬称略》

ご逝去

7月9日(水)

クララ 佐々木 恵津子
浜田基督教会

8月1日(金)

ロイス 國田 叔子
松山聖アンデレ教会

8月14日(木)

セシリヤ 景山 玲子
浜田基督教会

9月3日(水)

ヨハネ 大森 文太郎
岡山聖オーガスチン教会



①「宣教150年記念事業、はじめました」

委員長 司祭 瀬山 会治

皆さん、こんにちは。この度、「宣教150年記念事業」に関する情報をお伝えしてまいります。本事業は、2023年の第93回定期教区会にて「宣教150年記念事業委員会」が承認され、昨年には準備委員会が開催されました。教区会の決議による本事業の目的は、「SPG宣教師フォス、プランマー両司祭が神戸に上陸して150年目に当たる2026年に、今まで神戸教区を支え、導いてくださった信仰の先達に感謝をささげ、未来に向けて宣教を前進させるために、2026年9月23日(水・秋

分の日)に150年記念礼拝などの諸行事を実行する」です。9月29日(聖ミカエル及び諸天使日)には、上記の目的のために第1回実行委員会が発足しました。記念事業委員会は、準備委員会の報告を踏まえ、今後、準備を進めてまいります。なお、前回の宣教140年事業では十分な準備期間がありましたが、今回の150年記念事業の準備は、始動がかなり遅れてしまいました。限られた時間と予算の中で事業を成功させるには、委員会の知恵と工夫も重要ですが、最も大きな鍵となるのは、教区の皆様のご協力です。神戸教区宣教150年という節目にあたり、私たちはこれまでの信仰の先達に感謝しつつ、これからの世代のために、今できることを神に祈りながら努力してまいりたいと考えております。つきましては、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

11月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2025年11月6日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 八代 智

どなたでもいらしてください
*11月の記念逝去教役者

1日	司祭	レイモンド	クリストファー
3日	司祭	パウロ	山本 早太
4日	司祭		山辺 久吉
8日	宣教師	ヴァイオレット	ハイ ド
9日	司祭	アンデレ	児玉 正世
13日	司祭	モーセ	木俣 茂一
15日	司祭	ヨハネ	佐藤 眞子
17日	伝道師	ルデヤ	内田 歌子
17日	司祭	ウイリアム	ハン コック
18日	伝道師	チッポラ	末吉 信子
19日	司祭	ヨハネ	側垣 正哲
20日	司祭	パウロ	秋田 哲三
22日	伝道師		塩原 以満
28日	宣教師	ジャネット	マッ キ
30日	宣教師	エイミ	ボサン ケット

*逝去年月日不明の方々もお祈りします。